

先日、マレーシアに介護事情の視察に行ってきた。マレーシアの人口は2930万人でマレー系が67%、中華系が25%、インド系が7%の3民族で構成された多民族国家です。

高齢化率は5・2%と若い国家ですが2040年には高齢化率が11・4%の440万人に達すると言われています。マレーシアでは3世代が一緒に暮らし、家族内で介護をします。

しかし、近年では経済成長により都市部に移る若者が増え、高齢者の介護が家族内でできなくなっている状況が増えています。まだまだ未整備の介護サービス市場への発展余地がかなりあるのではないかと実感しました。

マレーシアにはナーシングホームとケアセンターの2種類があり、政府運営のナーシングホームが2カ所、ケアセンターが9カ所、民間運営のナーシングホームが15カ所、ケアセンターが133カ所あり、私達はクアラルンプール郊外の民間運営の老人ホーム(ケアセンター)を視察させて頂きました。



大部屋でバリアフリーもなく2階には階段を使わなくてはいけない状況にも関わらず、満室(定員40名)でした。地域では一番人気の老人ホームだそうです。人員基準は1対18で敷地面積1人あたり入居者に対し3平米という基準が設けら

介護市場広がるマレーシア

れています
登録のハ
ードルは現
時点ではそ
んなに高く
なさそうで
した。

就業率が
100%に
近いマレー
シアでは人
材不足によ
り家政婦と
して出稼ぎ
にきている
フィリピン
人やインド
ネシア人を
教育してヘル
パーの役割
として老人
の介護にあ
たっています

た。しかしイスラム教徒であるマレー系住民は親(高齢者)の世話は家族が自宅で見るとい風習が強く残っており、入居者は殆どが中華系です。人口の約7



ゲストハウス社長
松山英樹

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボーンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

割を占めているマレー系住民は親を老人ホームに入れる事にまだまだ抵抗が強いようでした。労働者の確保、介護士の教育、保険制度の整備などまだまだ遅れをとっています。が今後さまざまなサービスが市場形成と共に拡大していくでしょう。